

第15回産業日本語研究会・シンポジウム

人間とA Iはどこまで代替可能か 出版校正の現場から考える

牟田都子（校正者）

2024年2月20日（火）13:00～17:55

■産業日本語

〈産業・技術情報を人に理解しやすく、かつ、コンピュータ（機械）にも処理しやすく表現するための日本語〉

〈機械翻訳をはじめとする言語処理技術を活用することを念頭において、明瞭な日本語文の作成と高品質な翻訳文の低コスト作成を目標にしています〉

産業日本語研究会ウェブサイトより

■文芸校正

産業日本語と正反対の世界

機械では扱いにくい、翻訳しにくい、曖昧で複雑怪奇な日本語を扱う仕事

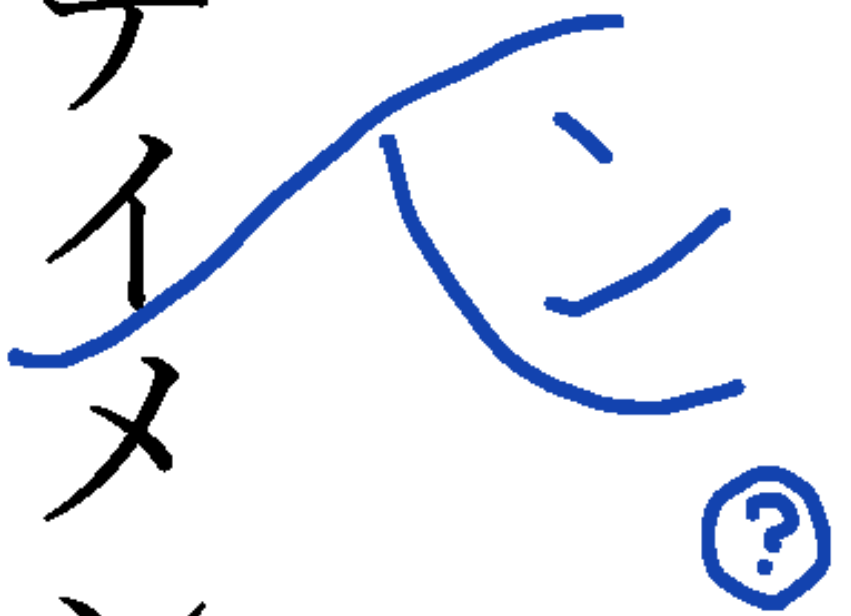
「群像」

- 1946年創刊の文芸誌
- 高橋源一郎、村上龍、村上春樹、多和田葉子らを輩出
- 大江健三郎『晩年様式集（イン・レイト・スタイル）』（2012年1月号～2013年8月号連載）

校正とは何か？

- 誤字脱字を赤鉛筆で正す仕事**ではない**
- 赤鉛筆ではなく鉛筆で書く
- 作品は著者のもの（校正者が勝手に手を入れることはできない）
- 鉛筆を赤字にするのか、消すのかは著者に委ねる
- 正すのではなく尋ねる仕事

エンターテインメント



最近気になる放送用語



「エンターテイメント」？

▶ 1998.07.01

Q 「エンターテイメント」ということばを使ったら、デスクから間違っていると注意されました。

A 英語のつづりはEntertainmentなので、「エンターテインメント」が正しい表記です。

ことば(放送用語)

▶ [ことばの研究](#)

▶ [放送用語委員会](#)

▶ [ことば・言葉・コトバ](#)

▶ [放送現場の疑問・視聴者の疑問](#)

▶ [最近気になる放送用語](#)



文研の刊行物(ことば関係)



日本語発音 NHK 日本語発音

エンターテインメント⑤▶

[entertainment]

客を楽しませることにねらいをおいた、大衆的な芸術活動。
エンターテインメントとも。略してエンタメ。「狭義では、大衆的な演芸を指す」



『新明解国語辞典』第八版、三省堂

エンターテインメント [entertainment]

〔名〕

- ① 娯楽。気晴らし。
- ② 余興。演芸。

◆「エンターテインメント」とも。また俗に「エンタメ」とも。

⚠注意 「エンターテインメント」は誤り。



『明鏡国語辞典』第三版、大修館書店

す
ち
ま
し
い

じ
②

③



すさまじい【凄】

『形口』すさまじ『形シク』（四段動詞「すさむ（荒）」の形容詞化したもの。古くは「すさまじ」）

⑧あきれかえるほどである。とんでもないことである。もつてのほかである。

＊洒落本・傾城買四十八手（1790）やすひ手

「茶やづきもすさまじい。おほかた大をん寺めへか田町だらう」



『精選版 日本国語大辞典』小学館

辞書は全部引く



三省堂国語



大辞泉



明鏡国語辞典



新明解国語



シソーラス



新明解国語



NHK アクセント



角川新字源



大辞林 4



類語新辞典



漢辞海 4



全訳古語 4



大辞林



三省堂国語



精選版 日国



漢辞海 3



岩波国語辞典



新選国語辞典



例解学習国語



新英和大辞典



リーダーズ

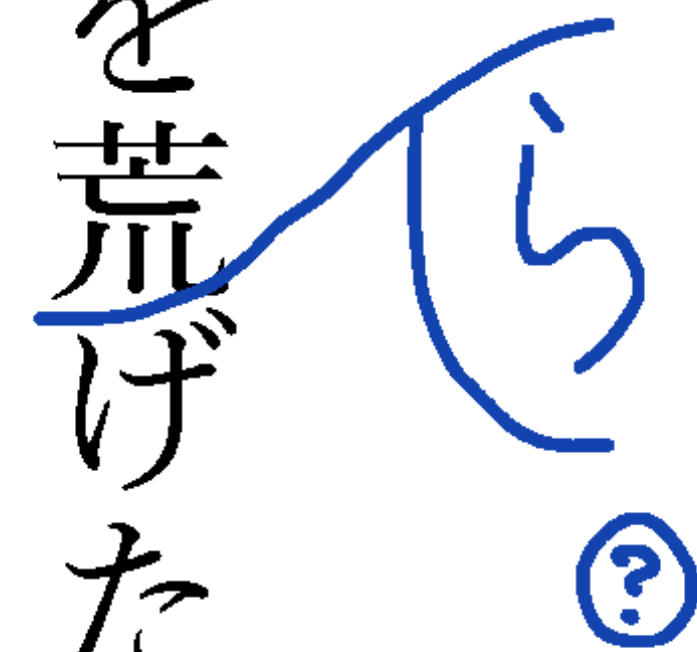


品格語辞典



無礼語辞典

声を荒げた



あらら・げる【荒らげる】

『下一他』荒くする。「声をー」

▽この俗な形が「あらげる」。



『岩波国語辞典』第八版、岩波書店

☆☆あらら・げ^レる「荒らげる」(『他下一』)

〔声などを〕あらくする。

「声をー・語気をー」



音が一つ落ちて「あらげる」とも。どちらの形も、

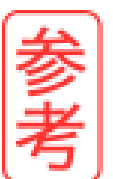
江戸^{どえ}時代からある。



『三省堂国語辞典』第八版、三省堂

あら・ら・げる^レ【荒らげる】^{他下一}
ーゲーゲーゲルーゲルーゲル
ーゲレーゲルーゲロ・ゲヨ

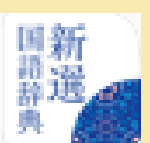
あらくする。あらげる。「声をー」



「参考」「あららげる」が本来の言い方で、「あらげる」は

近年使われるようになった語形。

あらら・ぐ^レ 文語下一



『新選国語辞典』第十版、小学館

迷いなく「正せる」ことは少ない

生成 A I に校正者はとってかわられるのか？

■朝日新聞社文章校正 A I 「Typoless（タイポレス）」

〈これまで人の手で行われていた「校正」を、AIを使って文法の間違いや文字の変換ミスなどを検知・指摘するサービス〉

（広告朝日編集部「朝日新聞社開発の AI校正支援ツール 「Typoless（タイポレス）」 の魅力」
広告朝日、2023年10月23日 <https://adv.asahi.com/marketing/digital/14966401>）

講談社「St.WORDS（セントワーズ）」（現「スマート・ソース・エディター」）

〈講談社が独自に作った本づくりに関するルール〉に基づいて、〈誤字や、送りがなのまちがい、おかしい使い方の言葉などが、それぞれ色分けされて一気にあぶりだされてくる〉

（『青い鳥文庫ができるまで』 岩貞るみこ／著、講談社青い鳥文庫、2015年）

- ・ シュミレーション→シミュレーション（誤字の修正）
- ・ 書き終える→書きおえる（表記統一）
- ・ 流れ出す→流れだす（表記統一）
- ・ ぶんぶく堂→ぶんぶく堂（固有名詞の統一）
- ・ 掴む→掴む（字体の統一）

てのひら
掌をかざす

たなごころ
掌をさす

て
掌の中に包み込む

「間違った日本語」は本当に間違っているのか

(3) 「物事の肝腎な点を確実に捉えること」を

(a) 的を射る……………	<u>52.4%</u>
(b) 的を得る……………	<u>40.8%</u>
(a) と (b) の両方とも使う……………	2.4%
(a) と (b) のどちら也使わない……………	2.1%
分からない……………	2.2%

文化庁『平成24年度「国語に関する世論調査」の結果の概要』より

まと「**的**」(名)

- ① へ弓の矢／たまぐを当てる目じるしとなるもの。
- ② 目標。
- 「攻撃^{げきこう}の―となる・―をしぼる」
- ③ 一か所に集まるところ。
- 「注目の―」
- ④ めあて。急所。要点。

●☆☆**的を射る**〔句〕

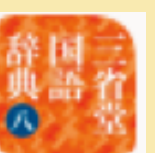
- ① うまくまとに当てる。
- ② 大切なところを正確に指摘^しする。急所をつく。正鵠^{こくせい}を射る。的を得る。
- 「的を射た質問」

●**的を得る**〔句〕

↓**的を射る**〔句〕②。

「的を得た表現」

❗「**的を射る**」「**的を得る**」とも、特に戦後広まった言い方。「得る」は「要領を得る」などと同様、「うまくとらえる」の意味。同義語「正鵠^{こくせい}をへ射る／得る」も二通りの言い方がある。



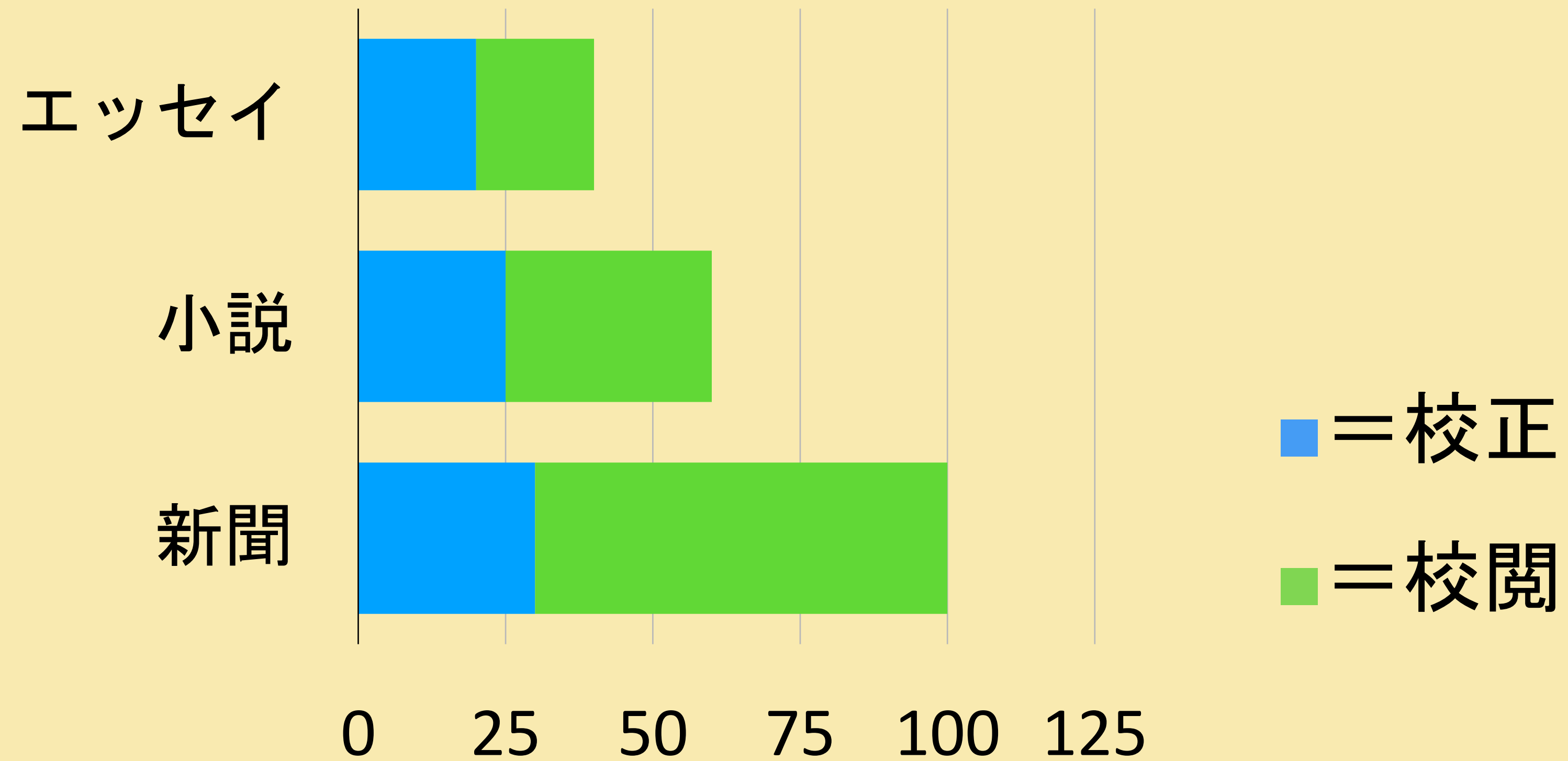
『三省堂国語事典』第八版、三省堂

〈誤用の認定には慎重であるべきです。一見おかしいことばにも、何か合理性がないだろうかと考える。そうした態度が、ことばを使う一人一人に必要です〉

（飯間浩明「『誤用』表現は本当に誤りなのか？」考える人、2015年10月4日
<https://kangaeruhito.jp/article/2387>）

校正と校閲

素読み＝文字や言葉を見る（校正）
調べもの＝内容を見る（校閲）



校閲（調べもの、事実確認、ファクトチェック）

- 固有名詞（人名や社名、地名）
- 数字（日付、データ）
- 事実関係の誤り（フィクションでも調べる）

▶ AIにサポートしてもらえる？

2位 ハルシネーション

『三省堂現代新国語辞典』小野正弘先生

ハルシネーション 〈名〉 [←hallucination] 人工知能（AI）が、事実とは異なる情報を生み出してしまふこと。「一を警戒する」《由来》もとは「幻覚」の意。その情報の文体そのものは、もっともらしいので、注意を要する。

三省堂 辞書を編む人が選ぶ「今年の新語2023」ウェブサイトより

The Cambridge Dictionary
Word of the Year 2023 is...

hallucinate

verb

When an artificial intelligence hallucinates,
it produces false information.



The Cambridge Dictionary Word of the Year 2023 ウェブサイトより

〈〔今井〕間違いだとはっきり分かる場合はともかく、こちらに専門的な知識がない内容を、もっともらしく流暢に書かれると正しいかどうか判断がつかない。また、まったく意味のないことを答えてくることもあります。

瀬名 ハルシネーション、つまり「幻覚」ですね。誰でも分かるような質問に対しても、まったく見当外れのことを時々言うことがある〉

「（対談）A I ・ 言語 ・ 思考 今井むつみさん×瀬名秀明さん」朝日新聞デジタル、2024年1月4日

× AIはもっともらしい嘘をつく

○ AIはも^もっともらしい嘘をつく

校正＝すべてを疑う仕事

誰もがすべてを疑う未来が来る？

「九重さん」のいない出版社は少ない



『くらべて、けみして 校閲部の九重さん』

（こいしゅうか／著、新潮社校閲部／協力、新潮社、2023年）

〈ひとつの言葉、ひとつの表現にこだわる日本語のプロとして本作りに欠かせない校閲者たちは、個性豊かな文芸作品とどう向き合っているのか？〉

判断＝引き受けること

『記者ハンドブック 新聞用字用語集 第14版』（共同通信社、2022年）

- 「差別語、不快語」
- 「特に気をつけたい言葉の主な例」

まとめにかえて

- 迷いなく「正せる」ことは少ない
- 「校正とは何をする仕事か」の理解なしに機械化はできない
- 人間もAIも「嘘」をつく
- すべての本が校正されている世界へ
- 「引き受ける」のは人間